

第六期武蔵野市コミュニティ市民委員会

第9回委員会

議事概要

日 時：平成21年4月10日（金）18:30～

場 所：武蔵野市役所西棟812会議室

出席委員：高田委員、江上委員、橘委員、島森委員、渡邊委員、中村委員、井原委員、
和久田委員、島田委員、井波委員、清本委員、西村委員

議事

①市民アンケートについて

・アンケート調査票の確定

（高田委員長）今日は「コミュニティに関するアンケート」を完成させる。

細かい部分の意見を出し合いたい。訂正希望があれば意見をいただきたい。

（井原委員）父母会の部分、問8の選択肢2は、青少協と並列にしないほうがいいのかはないか。

（中村委員）青少協はたしかに学校をはみ出しているのだから、分けられるものなら分けておいた方がいい。また、青少年問題協議会地区委員会とした方がいい。

（和久田委員）青少年問題協議会には、地域の方もPTAの方も一緒に含めている。組織の中にはPTAも入っている。父母会とPTAと比較的似ている。青少年問題協議会は、地域の人という意味ではなくくりが違う。

（西村委員）地域の三大団体は、コミセンと社協と青少年問題協議会だから、独立させた方がいい。

（高田委員長）では、青少年問題協議会を独立させることにしたい。

（井原委員）もう1点、コミュニティセンターについて。問のどことは言い切れないが、箱としてのコミュニティセンターに期待することを聞かなくていいのか。例えば防災拠点としての機能のように、箱ものとしてのコミセンに期待する機能を聞かなくていいのか。

（高田委員長）防災は、どこかに役割としてなかったか。

（井原委員）問5の災害時の対応のところを出ているが、地域で取り組まなければならない課題としてではなく、箱ものとしてのコミセンについて聞かなくていいのだろうか。例えば災害時には、いろいろな施設や設備が必要になる。備蓄倉庫のこともある。小学校には備蓄しているところがある。コミュニティセンターに、AEDのようなもので、こういったものがあればいい、ということを聞かなくていいのだろうか。

（橘委員）今、コミセンには防災の拠点としてのものは期待されていない。そのように考える市民もいるのではないか。設問として置いたらどうか。

(高田委員長) そうすると、コミセンに何を期待するか、というところか。

(橘委員) たとえば問9に、災害があった時の拠点として、と入ってもいいのではないか。今は、正式には期待されていない。

(事務局) 期待されていないのではなく、防災の災害対策の計画があり、その時にはやはり学校が一時避難所になっている。第二次避難場所については、市の中の高齢者施設などがあるという形になっている。

(高田委員長) 問9の中に、どういう言葉で入れるのか。

(江上副委員長) いや、問9は質問の意図が違う。

(事務局) 問12の「どのような取り組みを行えば」の中に、そういったニュアンスを含めたらいいのではないか。

(島森委員) 実は地域にあまり防災組織がない。けやきコミュニティセンターで防災組織をやっていく段階で地域の拠点として作り上げる中心になって、防災組織を立ち上げようとしているところだ。今年の秋を目指して現在活動しているが、問12に入るのかどうか分からない。

(井原委員) そういった組織が立ち上がったとしても、一時避難場所である学校が遠い方もいる。一時避難場所になるかどうかではなく、コミュニティセンターにそういったものがあればいいのではないか。ただ、それに限定するとどうかと思うので、もう少し広い聞き方があればと思った。

(島森委員) 現在、避難場所ではなく、いろいろなことをコミセンの周りの地域の人に声をかけて、とりあえず勉強しながら防災組織ができれば、そこまでをコミセンがまずお手伝いする、そうして地域の中から責任者の方を選び、いよいよ組織づくりを具体的にやっていこうということに、今なっている。

(島田委員) 今の島森委員の意見は、コミュニティセンターではなく、コミュニティ協議会がやられている自主防災組織だ。センターとはまた違うかもしれない。

(和久田委員) コミュニティセンターの中には無線が入っていて、防災などの無線訓練があるが、防災もコミュニティセンターに関係してくるのではないか。

(高田委員長) コミュニティセンターの利用の時に、今問12が問題になっているが、ここに「イベント・行事を充実させる」という項目があるので、「防災活動を充実させる」と加えるか。

(島田委員) 橘委員の指摘のように、問9に防災拠点という言葉を入れればいいのではないか。

(江上副委員長) 問9は、コミセンに関する期待を聞いている質問ではない。そもそも「コミュニティセンターについておうかがいします」となっているからおかしいので、その1行は問9のあとに入る。「地域との関わりについておうかがいします」のところの最後の質問という感じではないか。

(島田委員) 「コミュニティセンターについておうかがいします」は、ここの位置でい

いと思う。

ここにある言葉は今までこの中でも論議されてきたコミュニティセンターのアイテムがほとんど入っているので、これはセンターのことについて聞かれているのではないか。

(江上副委員長) では、問9の質問文を変えて「コミュニティセンターにこういう役割を期待しますか」と、したほうがいい。

(高田委員長) 「防災の拠点となるような場所」を問9に入れ、問9の問いかけを「コミュニティセンターに」するか。

(西村委員) 問9はコミュニティセンターだと分かるようにしたほうがいいが、そうすると、「コミュニティセンターを各地に建設してきたけれどご存じですか」という質問があとに来るので、据わりが悪い。

(高田委員長) 問9をコミュニティセンターに限定すると、単なる入れ替えだけではなく、もっと後のほうに持っていったほうがいいかもしれない。そうすると問12と重なってしまう。

(コンサルタント) 今、議論に出たように問9というのは、場を聞いている。コミセンの機能について聞いているところはないので、これを後ろに移すとすると、その時の前提としてはコミセンを知っている方に聞くことになる。

問9をそのまま残して、ここではあくまでも地域にどういうものがあつたらいいのかを尋ねる。「コミセンについておうかがいします」を後ろにずらして、問10-3に「コミセンに期待する機能は何ですか」と、コミセンを聞く機能をここで聞くという手はある。ただ、問9と問10でだぶり感が出てくる。

(橘委員) まず、問10で最初に知っているか、知らないかを聞いて、次にどういう場所があつたらいいかを聞き、今度はより具体的にコミュニティセンターについての機能を聞く、という三段階にしたらどうか。

(高田委員長) 「コミュニティセンターがどのような機能を持てばいいですか」という形で、場所を全部機能にしてしまい、これを全部問10-3に持つてくるのが、一番すっきりするのではないか。しかしそうすると、まちづくりの拠点というのはどうか。

(井原委員) まちづくりの拠点については、安心・安全のまちづくりという言葉をよく聞くから、そういったものがあつてもいいのではないか。いくつかの選択肢があつていいのではないのか。

(高田委員長) もし問題がなければ、問10-3に問9を持ってきて、これは「コミュニティセンターがどのような機能を果たせばいいと思いますか」とする。項目の中に「防災の拠点としての機能」を入れる。

(江上副委員長) 機能を聞いたとする。これに複数の○がつき、○が多く付いた項目のように、コミセンを運営していくことになるのか。

(高田委員長) 市民はそのような気持ちであると。

(江上副委員長) 気持ちだけ聞いても、それはどこかに生かしていくわけだ。そうする

と、〇があまり付かなかつたものは、しなくていいと判断するのか。

(橘委員) それは違う。多く〇が付いたものについては、これからそういった方向でしなければならないのではなく、努力をするということだ。もちろんできることとできないことがある。

(江上副委員長) つまり、防災などが含まれると、全部でその他を除くと9つになるが、それは場合によってだが、いずれもコミセンが担うべき機能だということか。

(橘委員) 期待されるということだ。

(高田委員長) 1位、2位、3位ぐらいまでではないのか。

(島森委員) それ以外については、〇が多い、少ないということだけでは判断できない。場所によって違う。また、これから八幡町の建て替えの時に、考えの1つになっていくのではないか。

(江上副委員長) では、この項目で必要にしてかつ十分なのか。

(高田委員長) もし運動するという項目にたくさん〇が付いたとすると、みんな手近なところでそういったことをしたいのだなと考えるということだ。

(西村委員) これを全部機能と言い換えるより、場所の方がいいのではないか。

(江上副委員長) 機能と言ってしまうと、これで必要にしてかつ十分か、かなり大問題になる。コミセンの機能とは何かというと、かなり大きな問題である。

(高田委員長) 場所にするか。「コミュニティセンターがどのような場所であったら、いいと思いますか」と。

(橘委員) 聞かれるほうは、場所と機能を区別して答えるだろうか。

(江上副委員長) 機能という言葉は固いので、聞くのは「場所」という言葉を使って、内容としては機能を聞いていると解釈すればいいが、今出ている項目で必要にしてかつ十分か。

(高田委員長) 「その他」があるから、いいのではないか。

(橘委員) コミセンにそんなにいくつも期待されても、実際問題として、上から2つか3つぐらいのところできて、要望の少ないものは、いずれはできないという話になると思う。すべてを満足しなければいけないというと、大変なことになってしまう。

(西村委員) 個人利用はたしかにあり、8の「気軽に立ち寄っておしゃべりができる場所」だが、おしゃべりしなくても気軽に立ち寄ってくださる方もいる。

(高田委員長) では、「気軽に立ち寄れる場所」か。

(高田委員長) さきほどの囲碁をするなどの場合はどこに入ればよいか。

(橘委員) 「趣味や娯楽などのグループ活動ができる場所」のところだろう。

(高田委員長) これはグループ活動である。

(橘委員) ではグループを取ればよい。「趣味や娯楽ができる場所」とする。基本的には、コミセンはグループだと思うが。1人で来たら、コミュニティではないから。

(江上副委員長) それは違うと思う。グループを生み出す活動もできる、としてほしい。

グループがあってそれがコミセンを使うということももちろんあるが、それだけではない。

(橘委員) コミュニティが生まれればいいということだろう。

(江上副委員長) 個人が基本だから、個人が集って。

(橘委員) 最初から最後まで個人で来る人もいるが、それはコミュニティではない。

(江上副委員長) そういった個人で来る人をどのようにつなげていくかが、まさにコミセンの機能だ。そういったことは、このどこに入っているのか。

(高田委員長) では、「個人をつなげていく場所」ということで。

(橘委員) 「気楽に立ち寄れる場所」として、おしゃべりはあってもなくてもいい。おしゃべりは複数ということだから。

(清本委員) お一人様お断りは、違うと思う。

(橘委員) そのようなことはしていないが、それまでコミュニティに含めるのはどうか。

(西村委員) サロンに1人でいらっしやって。そのあとどう発展するかは。

(清本委員) 窓口の方の対応によって、やはり変わってくる。

(橘委員) そこでコミセンが斡旋しなければいけないことではない。

(高田委員長) 個人をつなげていく場所をそこに置いて、「気軽に立ち寄れる場所」「個人をつなげていく場所」だろうか。

(清本委員) ぱらぱらになってしまった人をつなげる場所はたしかに大事だ。

(島森委員) 個人というより、知り合いになれる場所で、どうか。

(高田委員長) 今のところは、防災の拠点となるような場所、気軽に立ち寄れる場所、あともう1つ、つなげていく場所がある。これをどう表現するか。そういった新しいグループがそこで生まれてくるというニュアンスで。

「知り合いになれる」ということを加味して、ひと言でワーディングを検討していただきたい。

(島森委員) 「つなげる」のではなく自然につながっていく。

(橘委員) きっかけを提供するということだ。

(高田委員長) そういったところを最後のところに入れていただきたい。

(井波委員) 7ページのコミュニティのイメージについて、5の「わからない」を、入れるべきか。

(コンサルタント) 回答者の答えやすさという意味では、5の「わからない」があったほうが答えやすい。それから、集計する時に、「わからない」を除いて、1、2と3、4の差で見ることもある。その時は、「わからない」の部分を除いたその差がどのぐらいなのかの分析もできるので入れてはあるが、特にこだわるところではない。

(江上副委員長) どのような分析をするかにかかってくる。1つ1つについて、コミュニティについて1、2、3、4と8つ、ボランティアについて8つ並んでいる。1つ1つを集計していくのなら「わからない」が入っていてもいいが。

(高田委員長) この間は対になっている。たとえば「行政を関与するべきではない」と「行政は積極的に支援するべきである」というように、対になっている。

(島田委員) 「わからない」があったほうがいいのではないか。実質的に同じになるのかもしれないが、それがないとどこにも○を付けない人が増える気がする。

(高田委員長) では、当初案通りにしておきたい。

(西村委員) 問12の「市がコミュニティセンターについてより幅広く周知する」を、単純に「幅広く知らせる」のほうがよい。

(高田委員長) 「幅広くPRする」のほうがよりよいだろう。

(西村委員) 7ページについて。こういったことを聞かないとボランティアということがつかめないのか。

コミュニティについても同様。たとえば「一部の限られた人たちのものである」とか。

(高田委員長) これは上に「誰もが参加できるものである」という項目があるので、その対だ。

(清本委員) 誰もが参加できるものである、でいい、ということだろう。反対のものはいらないと。

(江上副委員長) これは対にする意図はあるのか。

(コンサルタント) 相反するような2つの意見があって、ではそれが本当に相反する2つの形になっているのか、その違いが見られたらと思い、対のペアにした。必要なければ、片方を全部落とす。

(西村委員) 「ボランティアは楽しいものである」だけでなく「ボランティアは面倒くさいものである」が必要かと。2つあってもかまわない設問もあると思うが。

(橘委員) 対にすると非常に矛盾する答が出てくる可能性がある。

(高田委員長) 問2、「困った時の相談や頼み事をする」、「家に上がってお話をする」をつけ加えたらどうか。

(橘委員) 1番目の中には家に上がったりするが含まれる。困ったことを相談するは、現実にそういったことがあるから、項目としてあったほうがいい。

(高田委員長) では1番はそのままにする。「困った時の相談や頼み事をする」を加える。

(高田委員長) 問4-4、「一緒に活動できる」は、「地域の問題で一緒に活動できる」としたほうが分かりやすいのではないか。

問5の12番の「まちづくり」には、いろいろなことが含まれる。たとえば防犯もまちづくりになるし、交通安全、住民間の交流連携もまちづくりだ。青少年の健全育成もまちづくりだ。ここのまちづくりは、いったい何なのか。

(事務局) 前回の議論では「まちづくり・土地利用」だと、土地利用という表現が、なかなか具体的にイメージできないという話があった。まちづくりというくくりにして、ハードの面でのまちづくりのイメージをここに出そうという議論だったと記憶している。

(高田委員長) ハードのほうのまちのイメージだと、どのような言葉があるか。地区計画か。

(清本委員) 地区計画とか地区まちづくり計画はあるが。それが皆さんの中に市民権を得ているかどうか。

(高田委員長) 景観か。

(西村委員) 8番にある。

(橘委員) カットしてはどうか。

(事務局) それも一案である。

(高田委員長) いろいろなことを含んでしまうので、削除としたい。

(高田委員長) 問8-2の4番は「必要な情報の収集」と言ったほうが分かりやすい。

問10-1、「コミュニティセンターについて、どのようにお知りになりましたか」だが、7番目に「コミュニティセンターでの催し物に来て」を加える。

問11-2、11番は「ピアノや音楽の練習のため」にしたらどうか。

問11-3、11-4は、「最もよく利用するコミュニティセンターは」に○を付ける、11-4で「窓口は話しやすい雰囲気でしたか」となると、11-3のコミセンの話になるが、それでよいか。

(西村委員) 「そのコミセンは」と入れたほうが分かりやすい。

(高田委員長) では「そのコミセンの窓口は」とする。

問12。「周知する」を「幅広くPRする」と変える。また、1番で市がPRするわけだが、7番として「コミセンが自己PRを積極的におこなう」というのは、どうか。コミセン自身が積極的にチラシやニュースレターを出して、積極的にPRをおこなうのは、必要ではないか。

(西村委員) コミセン自身はPRしているという前提だと思った。

(島田委員) 他の人がそれをどう受け取っているかを見るためには、必要かもしれない。

(高田委員長) では、「コミセンが自己PRを積極的におこなう」を入れる。

(高田委員長) 問17。まずボランティアのところで、「ボランティアは面倒くさいものである」とあるが、面倒くさいという意味がはっきりしないので、やめたほうがいい。それよりも、ボランティアは奇抜な人がおこなうものであると言われることがあるので、「ボランティアは奇抜な人がおこなうものである」はどうか。

それから、「ボランティアは自分たちのためにおこなうものである」とあるが、その対は「他人のためにおこなうものである」のはずだが、それは入れないのか。

(コンサルタント) 「行政のために」と対になっている。

(高田委員長) すんなりと、「ボランティアは他人のためにおこなうものである」では、どうか。

(事務局) ここはあえて「行政」と言わないで、「ボランティアは社会的な役割を果たすものである」として、それと「自分たちのため」と対にするのでは、どうか。

(橘委員) 代替という言葉を使うからおかしくなるので、実際にやっていることは行政のできないことを補完することだ。だから、補完がふさわしい。

行政は行政のやることをきちんとと行うが、そこでこぼれているところを、ボランティアがカバーするのではないか。

(西村委員) 個人的には「ボランティアは自分のためにおこなうものである」のが本来だったが、コミセンの意識があるから「自分たち」なのかと思った。しかし本来は自分だ。

(高田委員長) 「たち」を取った方がいい。

(清本委員) 「一部を代替するためのものである」が引っかかる。

(事務局) 協働については、なかなかたくさん意見、観点があるので、これをここで表現するのは難しい。橘委員が言うように、行政ができないことを補完すると、よく言われているので、その方向で訂正してもよいのではないか。

(高田委員長) 「一部を補完するものである」と。

(事務局) もし行政を入れるのであれば、そのほうがいい。あるいは定義が難しくなってくると思うので、除いてもよいのではないか。

あるいは先ほど言ったように、他人のためにと、一般的な言い方をするか。

(高田委員長) では行政を取って、非常に簡単に「ボランティアは自分のためにおこなうものである」「他人のためにおこなうものである」とする。

それから最後のフェイスシートの8番に、高齢者を入れた方がいい。

(コンサルタント) 高齢者の定義が65歳以上なので、「高齢者のかたがいる」あるいは「高齢者(65歳以上の方)がいる」とするか。

(高田委員長) そのほうが分かりやすい。

さて、長い時間ご議論いただいたが、この辺でとてもおもしろい分析ができる可能性があるアンケートができたのではないか。

・アンケートの実施方法について

- ・事務局より、アンケートの実施方法について説明。

②八幡町コミュニティセンターの建て替えについて

(高田委員長) 八幡町コミセンの建て替えについてどうするかを考える。

(井波委員) 八幡町コミセンの現状を見ると、とても地域の、まちづくりの拠点にはなり得ないということを痛感するので、できる限り速やかに、新しいコミュニティセンター

ができることを願う。

(橘委員) この件についてはすでに議会の請願も通っているわけで、予算の問題は別に
して、建てられるという方向はだいたい決まっている。八幡町コミュニティセンターはど
ういう内容で建てたらいいのか、コミセンとしての機能について、こういうものにしたら
どうかという提言ができるぐらいまで、この委員会で進められればよいが、どうか。

(高田委員長) そこまではやらなくてもいいのではないか。決めるのは地域の人である。
ここでは、移転新築が妥当なのではないか、というゴーサインでいいのではないか。

(事務局) コミュニティ市民委員会の中では、新設するというところまででよい。

(島田委員) 議会で陳情が採択されたうえで、なおかつ、市民委員会で、というのは、
なかなか理解できない。もう1つ、予算という面はどう考えればいいのか。

(事務局) 議会で陳情が採択されたということだが、これはあくまで団体意思を決める
議会側の考え方。市長の考え方については、こういった委員会にて、市民の方々の提案に
基づいて、最終的には市長が決定する。その後、市議会の方々にも伺うが、予算を取って
やっていくことになる。

市議会でそれを決定するというより、これは執行権なので、長の権限で決めるという段
階に来ている。その時に市民委員会の方々の意見を聞いて、報告・答申を受けてそれで市
のほう動くので、その手続に基づいてやっている。

(島田委員) 議会は市民の代表だという位置付けだが。

(事務局) 二元代表制なので執行権や予算の提出権は市長で、(議会は) それについて
チェックする機関だ。それで「ノー」という場合もあるが、議会がそういった意思だとい
うことがあって、今度は長の意思を決めるにあたり、ここで諮ってやっていくとい
うこと。それは市民の方々の意見を聞きながら、やることになる。

(井原委員) 最初の諮問事項の時に質問をすればよかったのかもしれないが、議会は請
願を通したが、それに対して、市長なりに疑問点や、迷っていることがあったから、こ
この場に投げかけたのか。そういったところがよく理解できていない。議会を
通っているなら、八幡町の皆さんに市長が話を直接落としてしまっ
て、話し合いをどんどん進めていけばよかったのではないか。コミュニティセンターに
必要な機能をこの場で大きく考えてみるというなら分かるが。そこが、よく分
からない。

(江上副委員長) 八幡町だけの話ではなく、武蔵野市のコミュニティセンターないしは
コミュニティづくりの一部の話だというとらえ方をしなければいけないのではない
か。市民委員会はそもそもそういったためにある。そういった大きな問題の中の1つ
として、今回の八幡町の話があると考えないと、コミュニティづくりを市民が担っ
ていくという主旨と違ってしまふ。

(事務局) たとえば極論を言うと、この委員会の中で八幡町コミセンはそのままでいい
という結論があれば、その結論を出してもらって、それについて市長が最終的に判断
するが、その辺のことを議論いただいて、たしかに八幡町は移転・新築が必要だろ
うという結

論であれば、当然市長もそういった決断をすることになる。最終的には市長が決定するが、そのために多くの市民の方の、特にコミセン関係者の方々の意見を聞いて、そこでどう判断したかを参考にして、最終的に決定したいということ。

今までの市民委員会の答申でも、当初は8のエリアを11にして、こういう形で、たとえば中央通りの東側と西側は別個にコミセンを作ったほうが良いといったことなども、すべて委員会の中で決定してもらい、ある程度考え方を示してもらったことに基づいて市長が行っているの、今回もそれと同じような手続きを取ってやっていきたい。

(橘委員) 今の状態では、コミセンに最低限必要な機能は、とてもできないことは事実だ。従って、完全に移転・新築するべきである。

そこで、この委員会の中で、どういう機能が必要かを議論してもいいのではないか。

(高田委員長) ここで、そこまでは言わなくてもよい。ここでは「よく分かった。それでは推進のことも出ているのだし、そちらの現状は分かったから、新築・移転を進めるように」というところまででいいのではないか。どういうものを作れ、というのは現場の人がそれぞれやっていけばよい。

(橘委員) 当然現状の委員会で八幡町コミセンを作ろうとすれば、今までのいろいろな過去のコミセンの状況も踏まえて、よりよいものを作っていこうと考えるはずだ。

(渡邊委員) 八幡町コミセンの移転新築推進委員会は、一昨年の6月28日に発足した。八幡町コミュニティ協議会の運営委員会で何回も組織したが、運営委員会独自でやるよりも、幅広く構成した方がいだろうということで、別組織で住民組織を作り、それに対応していこうとなった。青少協を始め、多くの団体関係者、あるいは個人的希望者を含めて、全体として36名ぐらいの役員で常任委員、副会長、事務局、常任委員で組織し、すでに13回委員会を開いている。

その中で、市長との話し合いも持って、長期総合計画の中にあるように、コミュニティのあり方、コミュニティセンターのあり方を抜本的に検討する中で、八幡町コミセンがこれからのコミュニティセンターのモデルになるように、一緒に作っていこうと、市長から言明されている。8月には目途を付けたいとおっしゃっている。それを受けて、推進委員会は、どこにどのようなコミセンを作るかを含めて、場所の検討、どんなコミセンにするかの検討、そのためにいろいろな団体から意見を聞いたり、各コミセンを見学したり、設備、使い勝手を含めて、どのようなコミセンを作るか中間の集約で、配布した資料にまとめてある。

住民の代表である議会で満場一致で採択されたので、みんな逸る気持ちを持っているが、八幡町だけの問題ではなく、武蔵野市全体の問題だということを含めて、全体の進め具合について、各コミセンに連絡をしているし、署名等の協力も願っている。ここで、新しいコミセンのあり方について検討される内容を反映しながら、作っていききたい、そのことがこれからのモデルになるような八幡町コミセンの建設であり、武蔵野市全体の中で活かされるコミセンだという位置付けで推進委員会を進めている。

その内容は、ここに書いてあり、特徴はいろいろあるが、全体として近隣のコミセンと相通じるような視点、バリアフリーやエコといった視点がある。また運営面についてもいろいろ検討している状況だ。この中での決定を、首を長くして待っているのが現状だ。

また、八幡町コミセンは地域的な特徴がある。歴史的には他のコミセンと違った背景もある。

(高田委員長) その辺は、この間からの話でよく理解している。だから、委員会としては、新築・移転は当然だということでもとめたい。もう委員会が発足しているし、回りとの調整もあると思うので、そこは八幡町の方々を中心となって、回りと調整しながらやっていってもらえれば、きっといいものができるのではないかと、委員会としては、移転・新築は適当だということでもいいのではないかと。反対の方はいないか。

(事務局) できれば、ここで委員会名で市長宛に八幡町コミセンの移転・新築については促進すべきだという文章をいただきたい。出してもらえれば、市長が受けて、それをわれわれに指示することになる。

(橘委員) ここで採決したらいかがか。

(高田委員長) 全員賛成か。

(一同) [挙手]

(高田委員長) では全員賛成ということで。

(事務局) 文章等は考えさせていただき、またお諮りする。

・次回の議題について

(事務局) 次回は境東部の陳情に対する対応についてご議論願いたい。

(高田委員長) では、今回はこれで終了する。

2. その他

・次回の予定 5月14日(木) 午後6:30～ 市役所601会議室

[了]

第六期武蔵野市コミュニティ市民委員会

第10回委員会

議事概要

日 時：平成21年5月14日（木）18:30～

場 所：武蔵野市役所東棟 601 会議室

出席委員：高田委員、江上委員、橘委員、島森委員、渡邊委員、和久田委員、島田委員、
井波委員、近藤委員、増田委員、清本委員、西村委員

1. 報告事項

①市民アンケート（決定版）について

（事務局） アンケートの内容について、最終的に委員長、副委員長と協議した上で整理し、市民に発送した。

7ページにあった問の「コミュニティについて」と「ボランティアについて」は、委員長、副委員長と協議の結果、削除することにした。

②八幡町コミュニティセンター移転・新築に関する提言を提出

（事務局） 前回の委員会で、八幡町コミュニティセンターの移転・新築について、市民委員会の総意として、全会一致で移転・新築するべきという結論になったことを受け、その主旨で提言書を作成し、4月30日に委員長から市長に提出していただいた。

2. 議事

①境・境南町東部への要望に対する対応について

（事務局） 資料3。第1回の委員会で採択されている陳情についての補足説明として、「みぢかなまちづくり・武蔵境」の代表である平野氏より、市、委員長に宛てた補足説明を受領した。この件について、今日の議論を進めていただきたい。

（みぢかなまちづくり・平野） まちづくりの会で話し合った結果、3点の項目を決定した。

（3項目の読み上げ）

（高田委員長） 「市民の合意形成が可能ならば」とは、どういう意味か。

(平野) 市民会館を利用している団体のこと。今の社会教育団体では有料だが、コミセンは無料なので、コミュニティセンターとして利用することになると、運用などいろいろなことがあるため「合意を得られれば」ということ。

(高田委員長) 武蔵野市全図を見て、今まで徒歩 500m 範囲内で行けるコミセンを考えてきた。境南、西部からは 500m の範囲から抜け落ちるところがある。どう考えるか。

(井波委員) 市民会館は、どこが運営主体なのか。

(事務局) 市の教育委員会の生涯学習課が行っている。

(井波委員) それと今度の武蔵野プレイスとは、まったく関係ないのか。

(事務局) 武蔵野プレイスの中にも生涯学習機能が入っていて、市民会館との役割分担は、検討中。まだ決定したわけではないが、プレイスの完成後、市民会館の 1 階にある図書室の空いたスペースを、皆が自由に使えるような自由スペースにする話は進んでいる。

(井波委員) 市民会館は有料だが、それが無料なら、市民会館でもかまわないのか。

(平野) そうではない。

(みぢかなまちづくり・ナカマ) 市民会館の今後の使い方に関するヒアリングで、武蔵野市の教育施設としての唯一の施設だから、プレイス完成後もそのまま残して欲しいという意見のほうが多かった。

もう 1 つは、運営をどうするかを今、検討中だという意見もあった。コミセンの場合は基本的に無料で、社会教育会館は、有料の施設がたくさんあり、市民の合意形成が前提でなければ難しいのではないかと考えている。

(橘委員) 市民会館がコミセンになった場合、当然無料になる。その場合、今まで有料で使ってきた利用団体は、無料になるので文句はないだろうと思う。ただし、使い勝手が違って来るため、抵抗があると思われるが、それについてはどう考えているのか。

(清本委員) 市民会館がコミセンに対応する場合、先ほど言った図書室の部分だけなのか。

(事務局) 第四期の基本構想長期計画ではプレイスを作ることが決まっていて、市民会館についてはコミュニティセンターへの転用を検討した方がいいという話だったが、そのあと、この調整計画では、転用案が少し薄れている。

コミュニティセンターというよりも、1 階の部分について、誰もが使えるようなスペースにしていこうと、話し合っているのが、現段階だ。

(江上副委員長) 要するにコミセンが必要なのか、そうでないのかが分からない。もし

1つの独立したものが欲しいならば、今の16の地区割りを変えざるを得ない。

(ナカマ) 分館であれ本館であれ、コミセンという位置付けだから、16という今の構想、地域割りの変更を求めて、それに対応する分館なりコミセンなりを作って欲しい、という趣旨ではない。

(江上副委員長) 新たに17館目を作らないのは、なぜか。

(ナカマ) 1回目と2回目の議論を拝見すると、本館を作るには、コミュニティ構想そのものの変更になるから難しいという議論があったので、そうすると難しくなると思った。

(事務局) 境の東の地域は、コミュニティ構想が既に決まっているから、そこに本館として地域の方々がコミュニティ協議会を作り、そこで運営していくならば、コミュニティ構想自体を考え直すことになる、という話をしたのだと思う。絶対にできないのではなく、コミュニティ構想が変われば当然ありえる。ただ、八幡町の建て替えと比較すると、コミュニティ構想の話になるので、重要な問題になる、という話をしたのだと思う。

(江上副委員長) 今までもコミュニティセンターが必要な地域の方々が、自主3原則に従って管理運営していくという声が地元から挙げれば、コミュニティ市民委員会が取り上げて、地区割りを変える議論を何回もやってきた。もう一度17個目の地区割りを作るかどうかを検討することになると思う。

まずは、コミセンがぜひ欲しいのか、西部コミセンに話しをして分館を置きたいのか、はっきりさせた方がいい。

(島田委員) 市民会館ではなく、ここにある分館を新しく作るとなると、境南とも話し合わなければいけないので、いっそのこと、コミュニティを新しく造るほうがはっきりするかもしれない。

(ナカマ) 分割して、17個目の協議会を立ち上げるということか。地域割りは、境南町と境地域とまたがるということになる。

(島田委員) 新しいコミュニティということだ。たとえば、境南コミセンにしても西部コミセンにしても、相談されたら何と言うのか。

(ナカマ) 西部の場合は「協議会に入ってくれ」と誘われているので、その考え方に立っている。分館だとなれば、協議会に立候補して、途中でも希望すれば入れると言われている。だから、協議会に入って、そこで立ち上げていくこと、分館づくりについての話し合いも提供していきたいと考えている。

(清本委員) もし分館にすると、借りる時に申請するのは、西部コミセンまで行かなけ

ればいけない。

(ナカマ) それは改善すればいいのではないか。分館でもそういった業務ができるように、それこそ市民委員会で検討する課題だと思う。

(井波委員) ここに書かれている2番に「分館または単独館」とあるが、単独館というのは、第17番目のコミュニティ協議会を立ち上げると理解したが、この書類の内容はそうではないのか。両にらみだということか。

(島森委員) 分館と協議会を作るということはまったく違う。その地域にコミュニティ活動をこれから根付かせていこうという気持ちがあってやっていくのか、それとも西部や境南から遠いということで中間あたりに借りやすい、使いやすい場所がほしいということか。

(平野) 2つとも当てはまる。最初にコミュニティセンターという構想で、あそこにコミュニティを築こうというのが前提だ。それを考えると西部コミセンに行くには遠すぎるため陳情を出している。遠いから欲しいというのは、かなりの理由を占めている。

(渡邊委員) 平野さんが陳情されたときに、地域が広く不便だから17番目のコミセンを作り、その管理運営は17番目のコミュニティ協議会がやるという話し合いは、なかったように思う。その時には今そこを覆っている西部コミセン、境南コミセンの関係者が1人もいなかった。仲介が入り、市民会館の転用を含めて、という条件付きで採択されたような気がするが、どうだろう。

(ナカマ) 議論の中で市民会館の転用という部分もあった。市民会館の場合も、高齢化するとかなり遠く、500m以上あるので、できればもっと東側のほうがいいという議論がずっと続いていた。

もう1つ、当時の課長に相談に行った時、集会所という政策はないから、プレイスができて西部の公共施設が移ったあとの市民会館の空いた部分を、コミュニティの分館とする方向で運動を進めた方が早いというアドバイスを受けたりして、そのほうがいいのではないかと、これまで来た。

希望は、とにかく東側にコミュニティ活動の拠点欲しい。東側のまちづくりは、高架になるため、境南町とも地続きになり、一体化されるということで、境南町の東側と境の東側のまちづくりの拠点がどうしても必要になってくるので、それを契機に拠点作りを目指そうという意見でまとまった経過がある。

改めて地区割りをして選定するのは、難しい問題もあるので、今の構想の中で実現する

ためには、場所としてこの1丁目のところなら、境南町の東側からも境の東側からも使える。それで西部コミセンの分館のほうが近道ではないかというのが、本音としてはある。その方向で、皆さんにご理解いただきたい。

(清本委員) この話はそもそも、本村公園の脇に市が買い上げた、100坪ぐらいの小さな場所が更地になって、そこにとにかく集まることができる場所が欲しい、というのがスタート地点だ。

しかしそこは公園用地だから、建物は建てられない、ということだった。結局公園を管理するグループが立ち上がった。今は「どんぐり広場」と呼んでいるその土地を、地域の人が管理する緑化公園課と契約を結んで、市の補助も受けながら管理している。しかし公園は雨が降れば使えないし、趣味の活動に使いたくても制約があるから、やはり集まる場所が欲しいといった声がずっと残り続けて、今「みちかなまちづくり・武蔵境」になった。

遠いというだけでは、理由にはならないが、日常的には、なかなか集まって話ができない。

(井波委員) 遠いというのははっきりした理由だ。ただ、コミュニティ活動をする主体がよく分からない。誰がやるのか。箱ものは後に付いてくる話だ。

先ほどナカマさんは、本音は西部コミセン分館という形で、西部コミュニティ協議会の中で、それがダメなら17番目ということだった。西部コミュニティ協議会は、今のような話を了解されているのか。もし分館ができれば、自分の協議会の中の分館としてちゃんと面倒を見るといったことは、どうか。

(清本委員) 了解されていない。何回も手紙を出したが。

(ナカマ) 先月市長もおみえになった26日の総会でもお会いして、分館として作りたいと申し上げた。その場合に、必要であれば協議会のメンバーにも入ると。今度の6月に懇談会があるので、そこへ行って発言して、よく協力をお願いしたいと思っている。

ただ、今、分館を作ってやっていくことは、現在ある西部コミュニティ協議会の権限なのか。よく理解できないが、そこに作る、作らない、という権限が向こうにあるとは、正直言って私自身は思っていない。

(江上副委員長) 分館ならば、皆さんが西部コミセンと話し合い、西部コミセン協議会から要請があるのが手続的な筋だと思う。

(ナカマ) 何回も言っているように、とにかく集まれる場所が欲しいということからスタートしているので、どちらか可能性がある部分を選択肢として掲げているだけである。

(高田委員長) 伺っていると、基本的なところが揺れている。この委員会でこれを今検討していくのは、無理なのではないか。そちらで、もうこれしかないという形のものを出していただかないと。

(アオキ) 私たちは自分たちが集える場所を作るために、どうやったら早くできるか、ということに視点を置いてしまった。そのため基本のところをグラグラと動かしてきたということは現実にある。

私たちが要望して、もしこのコミュニティ委員会です承してもらえれば、新しいコミュニティセンターを作れるということなのか。

(高田委員長) 作れるだろう。

(井波委員) 建物の話は別だが。前提が、この陳情書がもし出し直せるものであれば、やはり1本に絞ったほうがいい。名称は別にしても、仮称でも「〇〇コミュニティ協議会」を立ち上げ、単独館を作って欲しいという陳情なら、すっきりするのではないか。

(アオキ) しかし、もしそういった形で新しく陳情し直した場合、これは市議会で通っているが、どうになってしまうのか。

(江上副委員長) 文面から見ると、コミセンを設置していただきたいということだから、いいのではないか。

(高田委員長) 渡邊委員が言われたように、議会が通した時には、付帯条件を付けていて、それで手を挙げた人がいるはずだ。もう一度、それこそ「〇〇コミュニティセンター準備委員会」という形で、陳情し直したほうがいいのではないか。それで本当に必要なら、われわれも武蔵野市全体のコミュニティづくりの活性化のために、ここに作るのは必要だということまではできる。ただし、それで「さあ、作ってください」というのは、市のほうの話だ。

(事務局) それはそのとおりだ。ここのエリアにコミュニティセンターが必要だろうと言われて、すぐにとというのは、財政的な問題や土地の問題などがあるが、それが出されていれば、尊重されると考えていい。

(高田委員長) コミュニティ構想の変更ということでのお願いは、われわれのほうができることだ。単独館建設という形で、今度は「やるのだぞ」という意気込みを見せてもらえればいいのではないか。

(橘委員) 自分たちの地域の中で、まずこういうコミュニティ協議会を作る、ということで準備委員会を立ち上げることが先ではないか。やはり仮称でもいいから、協議会とい

うものを作って、本館を作りたい、17番目を作りたいという、しっかりした意思表示をされることが大事ではないか。

(島田委員) コミュニティ協議会はどうやったらできるのか。

(高田委員長) 自発的にやれると思う。

(橘委員) 最初は正式名称ではなく、準備委員会になるかもしれないし、「(仮称)」と言うことになるかもしれない。

(高田委員長) けやきコミュニティセンターなども、そうやって7年間やってきた。

今は第六期だが、第七期のコミュニティ市民委員会が立ち上がると思うので、具体的に境南のことについて審議することが立ち上がると思う。

(島田委員) けやきが7年間かかったということだが、本宿は何年かかったのか。そういった新しく作ってきたところの経緯をよく調べ、参考にしてはどうか。

(ナカマ) 先ほど質問があったが、議会を通っている陳情書の中身との関係では、どういった扱いになるのか、改めて最初から陳情のやり直しになるのか。

(事務局) 当時は市民会館の部分でもいいのではないかという話をされた。そうではなく、私たちはここでコミュニティセンターを新たに作っていただきたい、作りたい、自分たちでコミュニティ活動をやりたいのだという話であれば、結果がこうなったかどうか分からない。

(高田委員長) 市民会館やプレイスが今度できるが、それではだめで、ここに作らなければいけないということをもう一度陳情したほうがいい。

(ナカマ) もう一度、補足説明ではだめか。

(高田委員長) 将来のことを考えたら、変にいろいろなところを説明せずに、やり直したほうがいい。

(西村委員) 先ほどの橘委員の意見のように、もう新しいコミュニティ協議会の準備会を作って、そこで陳情するというでもいい。西部コミュニティ協議会に入って一緒にやるのも、新しい協議会でやるのも、同じように苦労なのだとしたら、本来自分たちが一番やりたいことでやるほうが、力が出ると思う。

(高田委員長) 一番最近できた本宿は自分たちで陳情した。

(事務局) 本宿コミセンができた時の時間経過だが、昭和62年の9月に請願が採択され、平成元年11月に、第四期コミュニティ市民委員会で中間答申を出し、そして平成2年12月に着工、平成4年2月にオープンしているので、概ね6年ぐらにかかっている。その時、

コミュニティ市民委員会の最終的な答申の中で「これをもってコミュニティ建設計画は完了する」という話があったと思う。

そういったことがあったので、議会の中でいろいろな配慮をされていたのではないかと。

(清本委員) だから、初めから、新しく作ってもらうのは大変だろうといった思いはかなり重くあった。

(江上副委員長) 一方で正面切ってコミセンを作るということは、地理的な条件、距離的な条件だけではなく、活動のことや、コミセンがあることでこの地域はこう変わっていく、というようなことをきちんと訴えたほうがいい。

コミセンができるまでの何年間は、施設が遠いということが地域の課題になっているのだから、たとえば相乗りをして送り迎えをするような仕組みを考えるといったことをしてはどうか。そうやって、私たちは地域の課題をこのように解決しているという実質を見せないと、次を作るということは壁が高いと思う。単にコミセン建設運動だけではなく、コミュニティ活動の実質を見せるような取り組みが必要ではないかと。

(ナカマ) 送迎活動というのは、武蔵野の条件があるところで、現実的に可能なのか。

(江上副委員長) そういった例は他の地域でどこにでもある。

(ナカマ) しかしコミュニティセンターの位置付けからして、市民にそういった場所を提供するのは、コミュニティ構想からすれば、やはり大変なのではないかと思う。お金をかけて向こうを利用するという活動をしる、というものについては。

(高田委員長) だからこそやるのだから、自分たちで作るわけだろう。変な言い方だが、今はとてもいい状況だと思う。逆にコミセンができた、ということだけにならないように、ずっと続けていくような形にできるようにやったほうがいい。今、本当にいい課題ができていて、皆さん集まっているいろいろな話が出ている。その時集まる場所がないとすると、元気のいい人たちが送迎部隊を作るというアイデアが出てくるかもしれない。

(西村委員) コミュニティづくりというのは、できてからも本当に大変なので、できる前から大変さを楽しんで欲しい。

(事務局・盛田) 今、いろいろ話があったので、今回どのような結論になるか分からないが、推進課のほうで皆さんと話をさせていただきたい。

②コミュニティとコミセンの課題とその対応策について

- ・コンサルタントより、「コミュニティとコミュニティセンターの課題（とりまとめ案）」

について説明。

(江上副委員長) これをもとにどのように議論するのか。たとえば3. コミュニティセンターの運営に関する課題、4. コミュニティ協議会の課題、5. コミュニティセンターの施設としての課題といった個々の細かいことを、そもそも報告書に盛り込むのか。

市民委員会なので、もう少し、まさにこれからのコミュニティをどうするかといった問題、この先どうやっていくのか、今までのやり方でいいのか、ということについて、全市民に問いかけるという基本的なスタンスで作られるような報告書、討議要綱になるのではないか。

(事務局・盛田) 提出したものは、これまでのとりまとめということ。今回のテーマの中間報告の作成に向けての1つの資料として出した。中間報告、討議要綱をどのように作っていくかといったところを話していただければと思う。

(橘委員) やはり30年以上経って、当初のコミュニティ構想の考え方と現状ではずいぶんずれが出てきていることは事実である。その辺の問題をある程度浮かび上がらせることが必要なのではないか。この間のアンケートでも、まだまだ「コミュニティセンターは何をやっているところなのか？」と言われるのが現実である。それは、武蔵野のコミュニティセンター構想の中で、当初と大きく乖離してきている問題ではないのか。

利用される方は徹底的に利用されるし、無関心な方はまったく無関心で、その差がとても大きい。私はこれが今のコミセンの課題として一番の問題だと思う。

(清本委員) 集会をする、市民が使える集会施設としては三鷹のほうがもっとたくさんある。地区公会堂というが、もっと密な度合いで市民が自由に使える施設がある。

武蔵野市ではコミュニティセンター以外は何となく白い目で見られる。そういった要求を出すと「それは何だ、勝手に自分たちだけが集まりたいためのものではないか」と言われる。

コミュニティ構想を否定するつもりはないが、それ以外の政策があってもいいのではないか。それはここで討議することではないのだろうが、そういった疑問は根強く持っている。

(江上副委員長) それはコミュニティ構想を少し狭く見ていると思う。「コミセン以外にこういうものがあったもいい」「こういうグループを立ち上げてもいい」など自由に言えるコミュニティを作ろう、というのがコミュニティ構想だ。

(清本委員) しかし、たとえばテンミリオンハウスや、子どもテンミリオンなどがあるが、コミュニティ構想とは違う。テンミリオンなどの、コミュニティを作りたい、コミュニティ活動をしたいということも。

政策の系列というのは行政が考えることだが、市民がこういう政策も考えて欲しいということ、提案できるだろう。

(高田委員長) 福祉を入れたコミュニティづくりということだろう。

(橘委員) われわれの今のコミセンは、ある意味で非常に漠然としている。町の安心・安全、といったことを言っている、それだけでは今の程度のことしかできない。

目的が特化したものは、これから立体的に、今のコミュニティ構想の中に取り込んでいく必要があるのではないかと。そうしないと、その地域の中のニーズに答えられるコミュニティセンターにはなり得ない、コミュニティ協議会になり得ないと考えている。

非常に誤解を招く話になってしまうが、そういった機能をコミセンに持たせることが必要ではないかと思う。

(清本委員) 行事をこなすために何かをやっているコミュニティセンターはかなりある。

(橘委員) その目的は、要するにコミュニティづくりのための行事だ。行事をやるためのコミセンではない。それをみんな誤解する。行事は1つの手段なのだ。

(清本委員) 手段ではなくなっているところも、かなりたくさんある。

(橘委員) 行事のための行事になっているところもある。自己満足のための行事も多分にあると思う。そうではなく、本当の意味で自然な形でそこに人が集まってこられるコミセンにならなければいけない。それも高いパーセントで地域の方が集まれるもの、自然な形で寄ってこられるものに、何とかしたいが、これはなかなか難しい。

北コミセンのパソコン講習会など、いろいろな仕掛け作りをコミセンでやっているが、なかなか仕掛け通りになっていかない。それは、今のコミセンの限界ではないのか。

それ以外に、たとえば老人問題や、福祉問題や、青少年問題など、いろいろなものについてコミセンとしてはある程度取り込んでいかないと、本当の意味のコミュニティづくりはできていかないのではないかと、個人的に最近特にそう感じてきている。

(島田委員) 私もその意見には賛成だが、どうやっていくかだ。たとえば橘委員のやられている研連、あり方懇などではそういった論議ができないのだろうか。

(橘委員) 研連という組織では、そういったことは議論できない。これは1つの枠を外れた話になるから。今、ここではどうやって枠を外すかという話ができる。コミュニティ

3原則を変えてもいいとのことだったが、本当にやろうとするなら、それをもう一度見直していくことも必要かもしれない。

(島森委員) 他団体とのつながりといっても、今は何かを一緒にやるといったことで、現実はその話で終わっている。それだけでいいのかどうか、今の段階よりもっと、さらに一歩進めるにはどうしたらいいのか、その辺のことを少し考えられたらいいのではないか。

(橘委員) 組織に取り込むというのではなく、いわゆる合衆国というか、ある程度自主権を認めながら、緩い連合体がコミセン、コミュニティ協議会なのだというようになったらいいのではないか。コミセンの1つのセクション、たとえば福祉の会が1つの部門ということではなく、コミセンの中にはあるけれど、そこが自主権を持つ、合衆国方式だ。

(井波委員) 今後変えたとしたら、たとえばコミュニティ協議会が地域の核になって、地域全体をまとめていく、その中核になっていかないといけないのではないかということだろう。

(橘委員) 都城市の話を見ると、1世帯500円ずつ、年間6,000円出すらしい。500円でも出していれば住民の参画意識は出る。武蔵野市の場合は、全部無料で、住民のほうでは参画意識はない。

(江上副委員長) コミュニティ税をやるか、ということだろう。

税金云々の話は別として、お金の話は重要な論点だ。活動資金をどのように確保していくかということは、大事である。

(和久田委員) 今コミセンを考えると、利用する時に、申し込みをしないと借りられない、並んでまでして申し込むという状況だ。何かその辺の枠があって、どうも使いにくいと感じる。

先ほどお金の話が出たが、昔町会といったものは、町会費を集めていて、それを出すことでみんなで町を守ろうといった気持ちになったような気もする。

(橘委員) そういった面から行くと、現在の箱ものの話になるが、今私が考えているような構想をやろうとすれば、今の箱ものでは到底十分ではないと思う。だから、やはりある程度そういったものを受け入れられるだけの容量、建物が必要で、スクラップアンドビルドの段階では、やっていくことが必要なのではないか。

(島森委員) 現実にはたしかに館の大きさもある。武蔵野市では、コミセンが各地域にある程度バランスよくうまく散らばっている。そこに市から実際お金が出ているのだから、

条件的にはどこのコミセンも同じで、自主運営、自主企画になっている。それゆえに、本当はそれだけ地域に分かれて、しかも同じような条件でできるのだから、何かできないか。

(清本委員) 集まる場所が全然なくて、いちいち近所の家を借りたり、自分の家を開放したりしてやっと集会が成立するという地域と、コミセンに行って申し込めば、集まる場所が借りられる地域があつて、非常に不公平だと思う。「バランスよく」という意見には、非常に抵抗がある。

(高田委員長) コミセンがそれぞれの地域にあるけれど、分かれているところで何かできないか、というのは、たとえばネットワーク事業といったことか。それとももっと別のことを構想されているのか。

(島森委員) 具体的には、そこまで考えていない。

(橘委員) 特に地域の中での他団体とのネットワークを作っていこうということも言っているが、組織と組織だと、なかなか難しい。お互いに費用を出し合うということもあるが、それ自体に限界があるということだろう。

(高田委員長) そうすると、橘委員の言う合衆国は、地域の中での他団体でもない。では合衆国というのはどういうイメージなのか。ネットワーク事業でも合衆国でもない。

(橘委員) 1つの組織である。

(高田委員長) 申し込みが必要だから自由に利用できないというのはどういうことか。

(和久田委員) たとえば福祉や青少協などが申し込みをしなくても利用できるような広がりがあるということ。

(橘委員) それは、組織が別である以上、仕方がない。

(和久田委員) 早く並んで申し込みをすれば、使えることは使える。今朝も朝6時から並んだと言っていた。そういった状況がある。

(橘委員) やはり部屋の数には限界があるわけだし、限度がある。ある程度早い者勝ち、抽選というのは仕方がない。そこはコミセンとの話し合いだ。ただ、無条件に優先で福祉の会に使わせるといったことは、組織が別である以上、どんな場合でも通らないと思う。

(清本委員) そういったことは一緒の組織だったら可能か。

(橘委員) それはある程度できるのではないか。

(渡邊委員) 同じ税金を払っているのに、今度の境地域で、非常に通いづらいところがある、遠い、使いづらい、広すぎる、ということがあつたらば、一定の区域のコンセンサスを得ながら、そこに新しい17番目のコミセンを作るということを明確にしてやれば、そ

れこそが最初の自主3原則の実現だと思う。

それぞれの目的を持ったいろいろな団体が、それぞれの自主性を尊重し合いながら、公の建物が本当にその人たちにとって気持ちよく使えるようになるにはどうすればいいかということ、あり方を含めて考えている。

1つの考えとして、定期的な組織運営、たとえば委員会など大事な時には優先してコミセンを使えるような体制を取ってもいいのではないか。いくつかの重要な組織の人たちが基幹運営、大事な運営をする場合には、安心して、長期的な見通しのもとにコミセンを使えるように日程を立てて、やるということだ。

それぞれの団体のネットワークづくりの拠点になる方向へ、1つ1つのつながりも大事にするが、そういったもののふれあいの拠点になるようなところにシフトしていったらどうだろうと。それをどうやって調和させるかということだ。

コミュニティ協議会というのは事業をやる場所ではないと思う。最近予算が絡むので、9月の段階で次年度の事業予算を立てる。それに見合った予算が付くことになると、今やっている事業が中途半端なところで、次の事業をやる。本当の意味でそれに見合った運営委員の独創性などではなく、既成のものにとらわれてしまう運営になっている、それは直すべきではないか。

コミュニティ協議会というのは、啓蒙的でなければいけないのではないか。そういった意味では、多くの取り組みに調和を取って、そこへ行けば情報量が豊富で、そういったことができるような拠点になっていったらいいと思う。縦割りの行政に見合う組織も、それがあれば初めて融合できるし、本当の意味の協働もできると感じている。

(清本委員) どなたからも出なかったが、行政との関わりの問題をぜひ議論していただきたい。大変うまくいっているコミュニティセンターの場合は、別に関わらなくてもいいと思うが、動かなくなってしまったコミュニティセンターがあっても、ただ自浄作用を待って何年もそのまま放っておいていいのか。

コミュニティ構想というのは、行政が建物を作って、初めて市民が集まる場所ができたのだから、行政は絶対に口を出さないことが本当にいいのかどうか。

自主3原則が、囲い込むための自主3原則になっているところもあるような気がする。だから、一度自主3原則についてきちんと共通理解をして、行政の立場がどういうものなのかきちんと議論して欲しい。

(西村委員) 2つある。南町コミセンの場合は、福祉の会とコミセンとが一部分重なり

ながら、いい関係を結んでいる。

資料4、コミュニティ協議会の課題のところ、2ページの下から2つ目に「地域の事務局」という言葉がある。それを目指したわけではないが、そういった現状が出てきている。ということは、前の委員長の頃から、必ずしもコミセンが主催でいろいろな行事や事業をする必要はないということで、ものによっては地域に任せるなどしていった結果、かなり数が増えている。たとえば環境ネットには、コミセンが扇のように抱えているが、全部で6つか7つの主催事業及び地域のNPO的なものが入っている。

コミセンがいろいろな活動をしている中で、ふつふつとコミセン以外にコミセンでは果たせない機能を持った居場所が欲しいということが出てきている。そういったものが今、いろいろ動いているが、それをコミセンがどのように考えたらいいかということも、ここで皆さんと一緒に考えていただけたらと思っている。

それから、その下の「情報公開、民主的な運営」ということも、非常に大事なことだと思っている。

(高田委員長) もう一度伺いますが、コミセン以外に、何なのか。

(西村委員) コミセンでは満たされなくて、コミセンプラスアルファの地域の場所だ。

(高田委員長) 環境ネットには、6団体入っているとのことだが、南町の地域の事務局についてはどう考えているのか。

(西村委員) コミセンの中のものすべてを含めてコミュニティ協議会は、自らがするのではなく、コーディネートする、事務局的な役割をすればいいと、暗示してもらったということがある。しかし、結果として今事務局的な働きになっている時に、やはりこの先の見通し、こういった方向をどう考えればいいのか。

(高田委員長) 環境ネットと協議会の関係はどうなっているのか。

(西村委員) 協議会の中に環境ネットがあり、道の会があり、自主防災組織があり、子どもの会があり、とたくさんある。

(高田委員長) それぞれの団体がコミュニティ協議会の中にあるのか。

(西村委員) そのとおり。

(江上副委員長) けやきで言うと、まちづくり局のような感じだろう。そういったものがたくさんあって、全体を見渡してうまく按配しているのが、コミュニティ協議会だと。

(清本委員) コミュニティ協議会が、事務局的な役割になっているのか。窓口ではなくて。

(西村委員) たとえば運営委員会の時に、そういったことの報告が全部出てくる。

(高田委員長) コミュニティ協議会が地域の事務局になっていると。

(江上副委員長) 自主3原則についてだが、私の考え方は、30年前も今も変わっていないと思っている。やはり基本は、市民を権力から守って、盾になっているものだ。それを崩すのは、あとで問題が出てくると思う。

もう1つが大事なのだが、橋委員の合衆国構想から始まって、今の西村委員の話を経験すると、あまり目的のはっきりしないようなイベントなどに走りがちであった、これまでのコミュニティ協議会の方向は少し直さなければいけない。地域のさまざまな活動団体となんらかの関係を取り結びながら、たとえば福祉の問題や子どもの問題、お年寄りの問題、地域のいろいろな問題について、これまでも増して取り組んでいくほうがいい、そのためにふさわしい何か新しい組織のあり方を考えるべきだと、そのようにまとめていいのか。

(高田委員長) 新しい組織になるのか。

(江上副委員長) 地域の事務局的な役割がいいのか、合衆国がいいのか、いろいろなやり方があると思う。いずれにしても、地域のさまざまなパワーをコーディネート、オーガナイズしながら、これまで手薄だった地域の課題にもっと積極的に取り組んでいけるような体制を、今後作っていったほうがいいとまとめられるのではないか。

(西村委員) 出てきた芽を育てるなども含めて。

(江上副委員長) これはある意味で大きな方向転換だし、変わり方の芽のような話になる。じっくり考えたほうがいい。

(近藤委員) 自分の学校の子どもを、もっと地域の人たちと積極的に関わらせてくて、1つ考えついたのが、挨拶道路を作ることだ。関前南小学校の回りの4つの道路に来たら、いつでも、誰でも、どこでも、必ず挨拶するというのを考えついて、話を進めている。

それをどことタイアップしてやるか考えた時、まず隣にある私立の幼稚園と関わる、その次に青少協、次に福祉の会でやろうとしたのだが、昨日、関前南の隣にあるコミセンを思いついた。

しかし、先ほど橋委員の意見で、コミセンは小学校にとってはあまり目的がはっきりしないことを実感した。

それから、コミュニティづくりで言えば、挨拶道路を作ることでのどの程度効果があるかわからないが、学校もコミュニティづくりの、温かな地域づくりになると期待している。関前南小学校としては、ほんの一部だが1つコミュニティづくりを担おうとしていると思っている。

(増田委員) 挨拶はやはり大事だと思う。最近、中学生や小学生はあまり挨拶をしない。

やはりみんなが挨拶をするようになると、地域も活性化してコミュニティもどんどん自然発生的にできていくはずだと、日々思っている。

(高田委員長) 最後は具体的な視点になった。次は、アンケートの結果が出る。同時に今出てきた部分の話を続けていきたい。おそらく、コミュニティ構想の見直しと自主3原則の再規定というような方向が一番大きなところでまとまってくるのではないかと。具体的な内容をどうするかを、さらに検討していきたい。

(事務局・盛田) 次回はアンケートの結果と、同時に、今日話があった課題、問題点に対する対応策、中間報告に向けての議論などもおこなっていただきたい。さらにその先には、中間報告のまとめという形で議題になると思うので、それも視野に入れて、委員会として私たちはこう考える、皆さんはどうかなど、内容についても議論していただきたい。特に事務局のほうでは、コミュニティのあり方や課題についてのいろいろな新しい動きがあると思うので、その辺について深く議論していただきたい。

- ・ 次回日程 6月19日(金)午後6時30分～
- ・ 次々回日程 未定(7月中、後日連絡)

[了]